

令和6年度 第4回 向日市社会教育委員の会議	
日 時	令和7年2月12日(水) 午前9時30分～同11時25分
場 所	向日市役所 第10会議室
出席委員	中本委員、高畑委員、河村委員、植田委員、田賀委員、定金委員、淀野委員、池田委員、中西委員、田邊委員
欠席委員	横田委員、吉岡委員
事 務 局	山本教育長、水上教育部長、長谷川副部長兼生涯学習課長、芦田生涯学習課担当課長、浦元文教課長、塚本図書館長、北山天文館長、里見文化資料館担当課長、小田中央公民館長、上西学校教育課担当課長
内 容	議題1 令和6年度社会教育関係事業報告書について 議題2 令和7年度向日市の教育（指導の重点）（案）について 議題3 令和7年度社会教育関係団体への補助金（予算案）について
教育長	【開会】 ○開会挨拶 ○挨拶 ○議題1 令和6年度社会教育関係事業報告書について －生涯学習課、中央公民館、図書館、文化資料館、天文館、文教課の各事業について順次説明－ －質疑応答－ －生涯学習課所管分－ 「生涯学習推進サークル・まなぼうや」の会員数が去年から減り、2名とのことだが、今後について伺いたい。 「まなぼうや」は、生涯学習ボランティア養成講座を修了した市民で組織され、その養成講座の受講に対し、助成金等が市から出ていると思う。現在もボランティア養成講座が開催されており、受講者がいるのか、助成金等が支出されているのか、そして今後の事業支援について質問したい。 会員数は、昨年度の会員6名から高齢化により4名退会され、2名となっている。また、生涯学習ボランティア養成講座は通信制での受講で平成9年に初めて行い、受講料は半額市が負担していたときいている。近年、受講募集は行っていない。当初の目的であった地域の方に生涯学習の場を提供するという一定の目標を達成した
委員長	
委 員	
事務局	

	ので、来年度以降は自主的に会員が活動することへ移行し、助言等の支援を予定している。 ー中央公民館所管分ー
委 員	「子どもふれあい講座 将棋が強くなる！教室」には、何名の参加だったか。
事務局	小学生 20 名の参加であった。
委 員	何事にもいえるが、幼少期に様々な体験をしておく、大人になってからでも物事への理解がしやすくなり、講座などに参加しようとするきっかけにもなる。今後とも子どもを含めた事業展開をしていただきたい。 ー図書館所管分ー
委 員	文学講座については今後の在り方を検討するということで事業をしなかったが、これまでどのような内容で取り組んできたのか、今後どのような形に変えていこうとしているのか。
事務局	昨年度まで、大学文学部の教授を講師に招き、個別の文学作家や文学作品をテーマに挙げ、1 講座あたり 2，3 回シリーズで作家、作品を掘り下げ、講演いただいた。文学作品については、図書館の中でも貸出しが非常に多いのだが、今回事業実施の見直しに至ったのは、コロナ禍後、利用者数が回復したものの、また減少傾向にある。これは人口減少、利用者の高齢化があり、高齢者層に依存している結果であり、今後は幅広い世代への図書館利用を促進するため、新しい利用者を獲得していくための事業実施を検討したいと考えている。
委 員	具体的な案はあるのか。
事務局	図書には 10 の分類があり、文学以外の、歴史、自然地理、社会科学などといったところでは、年代問わず貸出数も安定している。文学だけでなく、別の分類の本を取り上げた事業を検討し、幅広い世代の利用獲得を目指している。
委 員	若年層にとっては、図書館に出向いて本を借りるというのは、子どもの頃はしていても実際は減少傾向にある。時代の変化から、これまでの事業を市民のニーズに合わせて変化させていくというのはチャレンジだと思う。今年度から始まった電子書籍サービスではどのようなニーズがあったのか。また年度はじめに専門書の充実についても検討していくと伺ったが、どのくらい購入したのか。

事務局	電子書籍サービスの利用状況については、貸出しランキングがあり、そのランキング上位には文学作品が数点上がっており、向日市に縁がある作家の作品や、紫式部日記を現代語訳したものがある。その他は、料理本、旅行本といった日常的にインターネットを使って調べる内容の本などである。専門書に関しては、今資料を持ち合わせていない。後日回答させていただきたい。
委 員	読書推進事業をみると、色々なボランティアの方が養成講座を受けた上で活動されているのがわかる。ボランティア養成のための取組事業、そしてボランティアの方々の活動内容をぜひ広報していただきたい。 また、自習室の開設について、夏休み中の十日間に 141 人来館したということは、子ども達にとって図書館がとても身近に感じられているのではないかと思う。更に自習室の開設に力を入れて頂きたい。
事務局	ボランティア養成支援はこれまでから継続しているが、その取組内容が外部に見えていない等の当事者から声があり、課題の一つとなっている。今後もインターネットなどを活用し、支援や活動の内容を広く周知していきたいと考えている。 それから、自習室に関しては、一昨年の 12 月から常設で館内に自習スペースを開設しており、週末は全 18 席が満席になる日もあり、子ども世代中心に大きなニーズがあると感じている。今後とも拡充を含め検討していきたい。 ー文化資料館所管分ー
委 員	1 月の企画展のシンポジウムには参加がかなわなかったが、3 月にシンポジウムの録画映像上映会があるとのことで、楽しみにしている。
委 員	文化資料館は様々な向日市の歴史に関連する事業をされていて、向日市の誇りだと思う。子ども達を巻き込む事業開催は参加人数が少ないものの好感がもて、小さいときから向日市の歴史に触れる機会を積極的に設けることは今後も続けて頂きたい。
事務局	シンポジウムについて、事後 SNS にたくさんの感想が寄せられており、その中でも子ども達の Q&A コーナーについては、特に良い評価をいただいている。 ー天文館所管分ー
委 員	定例天体観望会への申込みはインターネット、マイナポータルから可能としており、費用を抑える方法であり工夫されたと思う。
委 員	子ども達への出前講座について、わざわざ天文館に足を運ばずとも、天文学に触

	れることができ、自分の子どもの時にあれば、天文について興味をもったかもしれないと思う。難しいことでも身近に感じられるようにすることが大切であり、今後も続けて頂きたい。
事務局	出前講座先の小学校教諭からも一定の学習効果があると、評価されている。今後も全小学校において実施できるように学校側に働きかけていきたい。 －文教課所管分－
委 員	文化財関係の事業についても、どの事業も充実していると感じている。「ふわふわ朝堂院」については、開催日が明日の平日で、参加対象が3歳上小学6年生以下となっているが、小学生の参加は予定されているのか。
事務局	会場である体育館近くの保育園や小学校に声かけしたが、小学校からは参加が難しいと回答されている。例年、夏休みに開催しているので小学生の参加もあったが、会場の関係で今年度はこの時期となっている。保育園からは参加いただけると聞いている。 ○議題2 令和7年度向日市の教育（指導の重点）（案）について －学校教育、社会教育について順次説明－ －質疑応答－
委 員	今回の変更箇所ではないが、1ページの下段、「人権尊重」の欄に、「人権という文化」という記載がある。「人権という文化」は説明が不足しているように思う。意図としては「人権尊重」や「人権を守る」という文化を根付かしていくということではないか。一度この点を再考されたい。
事務局	文章については再考したい。
委 員	4ページの「(15) 規範意識の醸成や異年齢交流活動など『自己有用感』をはぐくむ取組の充実」のところで、「異年齢交流活動など」が「自己有用感」を育むのは理解できるが、「規範意識の醸成」がどう「自己有用感」に結びつくのかわかりにくいので説明をお願いしたい。
事務局	文言について確認し、後日回答させていただきたい。
委 員	4ページの「(5) 子どもの自立心や自律性、人を思いやり生命を大切にする心などをはぐくむ授業の実施」には「命の安全教育」、「包括的性教育」が含まれると思

	うが、この「自律性」をとらえると、「(13) 向日市いじめ防止基本方針に基づく組織的な対応による、いじめの未然防止・早期発見・早期対応の徹底」のところで自分の思いを暴力・暴言で伝えるのではなく、自分の思いを言葉で伝えるような、国語の授業になるのかもしれないが、(5) と (13) は個別のことではなく、相互に関係する内容だと思うので、文章としてはそれぞれに書かれていても、常に関係していることを意識して学校で教えて頂きたい。
事務局	「命の安全教育」については、5 ページの健やかな身体の育成の「(6) 生涯を通じて心身の健康を適切に管理し、改善していくための教育の充実」のところでも、しっかり教育課程に位置づけて対応していきたい。また、2 点目の子ども達の思いの伝え方、いけない行動については人権教育、道徳教育、いじめ防止基本方針に基づき、学校で児童・生徒に対し指導してまいりたいと考えている。
委 員	どの項目に該当するのか分からないが、子ども達の紙すき体験や竹細工づくりなど、向日市の竹の子や竹など地元の産業に結びつくような、ものづくりの取組もされている。これらの取組も「向日市の教育」の中で位置づけていただきたい。
事務局	8 ページ「家庭・地域社会の教育力の向上」において、2 の「(1) 地域学校協働活動」の中で、例えば「竹とんぼづくり」を 1 事業として実施している。また小学生がふるさと学習の中で、稲わらを使ったわら細工などに取り組んでいる。
委 員	8 ページ「家庭・地域社会の教育力の向上」において、2 の「(3) 地域の青少年健全育成団体等」とは、こういった団体のことか。
事務局	具体的にいうと「向日市子ども会育成連絡協議会」がその一つである。この協議会ではものづくり教室を開催しており、その支援を行っている。
委 員	その子ども会に参加しているのは小学生までだと思うが、青少年教育という観点から申し上げると、中高生への育成、教育はどのように実施するのか。青少年教育というと、体験活動だけではなく、中高生の子ども達がよりよく生きていくための居場所づくりだとか、そういった工夫も含まれると思う。様々な事柄を考えていただきたい。
事務局	中高生への対応としては今後の課題として考えていきたい。 ○議題 3 令和 7 年度社会教育関係団体への補助金（予算案）について ー小中学校 P T A、青少年健全育成関係団体、子ども会への 補助金交付について説明ー ー質疑応答ー

委 員	先ほど、議題２で、ジュニアリーダー養成講座の開催についてはとりやめ、地域の青少年健全育成団体と連携し、子ども会育成連絡協議会を支援ということだったが、補助金の予算額には特に増額されていない。中高生への教育活動はどの部分に反映しているのか。
事務局	中高生への青少年教育活動の具体的な実施に関しては今のところ予定がない。 ジュニアリーダー養成講座の開催目的は２つあり、子ども達が主役となり、地区の子ども会で主体的な役割を担うことと、そのための青少年のリーダーを養成することだったが、現状は養成講座の協力団体「大地」の休止により、養成講座を続けていくことが難しく、また地区の子ども会への参加人数も減少傾向にあることから、これまでの形式を続けていくことは悩ましい問題である。青少年のリーダー育成はどのようにしていくのか、今後どのような形がいいのか検討が必要となる。また委員の皆様からのご意見をお聞きし、これからの方向を考えていきたいと思っている。 【閉 会】